

企業と社会起業家で若い力を活性化しよう

－CSRの新しいかたちの検討－

NPO 法人 NEWVERY 理事長 山本繁氏

NPO 法人 NEWVERY は、「若者たちが未来に希望を持てる社会の実現」を掲げて活動を広げている。

活動当初は、ニートと呼ばれる若年層の支援に力を入れた。しかし一度就職の機会を逃した若者を後になってサポートすることの難しさを実感した。ニート問題の源流に、大学や専門学校の「中途退学」の問題がある。中途退学者は、新卒での就職の機会を失ってしまう。そこから非正規労働やニートの問題が長期化する。

これまでも「中途退学」問題は認識されていた。しかし新聞などで各大学の退学率が公開されるようになったのはつい最近である。大学・専門学校でも十分に「中途退学」対策を実施してきたとはいえない。

NEWVERY が運営する中退予防研究所は、若者たちの社会的弱者への転落を予防するために、大学・専門学校からの「中途退学」にフォーカスし調査研究を行っている。「中途退学」の理由を注意深く調査すると、決して「経済的な理由」ばかりではないことが分かる。アンケートで「経済的理由」という回答を選んだ学生でも、突き詰めると「学費に見合わない」授業カリキュラムに対する不満が原因という場合もある。「中途退学」対策は、大学の経営上の問題としても重要である。

2006年に開始した「ときわ荘プロジェクト」は、漫画家を目指す若者に、都内で低家賃の住宅（シェアハウス）を提供し、そのコミュニティからプロの漫画家を輩出していくことを目指す。自ら目的意識を持って「就職しない」若者達は、積極的に応援しようという主旨である。高額な家賃が挑戦と成長の足かせになっているという問題意識が背景にあった。当初は代表自身の祖母の持ち家を活用するところから始まった。住環境を提供するだけでなく、入居する若手漫画家達の出版社への売り込みやマッチングにも力を入れている。